

議長（竹島ユリ子君） 4番 川崎和夫君。

4番（川崎和夫君） おはようございます。

通告してあります2点について質問します。

まず第1点目ですが、村職員の人材育成についてであります。

3月の定例議会で役場職員の人材育成について質問いたしました。そのときの副村長の答弁では、「住民が望んでいる公共サービス実現のため職員一人一人の意識改革や資質の向上を図ることが必要であり、また、公務員としての使命と責任を自覚し、村民に信頼される職員、また幅広い視野を持てるよう自己啓発を図り、多様化する住民ニーズに的確に対応できる職員」と答弁されております。

研修に派遣するからには、本人の適正または将来にわたっての人材育成の方針があると思います。この方針実現のため、必要に応じた研修を実施してこられたと思いますが、どのような研修を実施し、成果はどうであったか、それについてお聞きします。

次に、防災訓練についてであります。9月定例議会の答弁では、参加した各団体との事後検討会を9月末までに開いて、問題点、改善点の洗い出しを行い、今後に生かしたいとありましたが、どのように総括されたかお聞きします。

以上であります。

議長（竹島ユリ子君） 総務課長 古越邦男君。

総務課長（古越邦男君） 川崎議員のご質問にお答えさせていただきます。

1つ目は職員研修の実施状況についてのご質問だと思います。3月議会で答弁しましたとおり、22年度も公共サービス実現のための研修を実施しております。

具体的に申し上げますと、まず職場研修では、新採・中堅クラス職員には、県などが実施しております「新任職員研修」や「法令執務研修」等を受講させております。幹部職員研修は、千葉にあります市町村職員中央研修所、通称市町村アカデミーと言っておりますが、そこで開催されました「市町村の課題戦略セミナー」へ2名派遣しております。

復命書には、地方自治の進展に伴い、従来よりも職員に期待される能力も多様化し、専門性、創造性、柔軟性、協調性、豊かな人間性が要求されている中、自身、これまでの対応でよかったのか、自分はどれだけ努力してきたのか心配だが、これまで以上に「日々能力を磨く努力を怠たらず、住民サービス向上につなげていきたい」と記載しております。

また、新人育成方法といたしましては、全国各地でトレーナー制度が導入され効果を上げています。新人職員をいかに早く戦力として育てるか、舟橋の職員構成は非常に少なく、少数の職員で対応しているという現状を踏まえた中で、今後の職場づくりの大きなかぎになるのではないかと報告を受けております。

専門研修では保健衛生部門の予防接種、母子保健、発達障害についてそれぞれ保健師を派遣いたしまして、全国で取り組みをされている先進的な事例等を学びまして、役場の実務に生かせるよう工夫を重ねているところでございます。

また、富山県は経済界の協力を得て、企業、新分野進出、地域づくりを目指す「とやま起業未来塾」を開講しております。今回「地域づくりリーダー養成コース」に初めて1名参加させております。地域活性化のため、地域の課題の掘り下げと解決策の計画実行を目指す人材を育成する講座で、県内外の一流講師陣の指導を受けているところでございます。

自主研修といたしましては、先ほど山崎議員の答弁でも述べましたが、総合計画ワーキング部会へ参画しております。今の舟橋村に何が不足し何が求められているのか。PCM手法を用いた研修を通して、住みやすい村、住みたくなるむらづくりはどうあるべきか。将来の住民に負担とならないむらづくりはどうすべきか。今の子どもたちの夢をかなえるむらづくりは何か必要なのか。そして同じく我が村の発展を思い、応募されました委員とともに、地域の人々の考え方を学び、意見交換し合いながら、自分の考え、歩むべき自治体の姿をまとめ上げ発表することは、非常に効果的で即効性のある研修と考えております。

昨年度は、自治会長さん方と合同で実施した研修では、地区の活性化という現在形の問題を取り上げましたが、ことしは10年、20年後の村の将来の方向性を導き出す未来形のもの、夢を実現するための方策を導き出す研修であると思っております。

このワーキング部会に参加した職員は、新総合計画策定という村の将来を考える点では方向性は一緒の会議でも、さまざまな人々の多様な考え方があることを知った中で、舟橋村の未来について自身の言葉で考えを発言できるようになったことは、視野も広まり、大きく成長できたのではないかと考えております。

このように今年度もさまざまな研修に派遣をしておりますが、具体的効果はなかなかすぐには見えないところもございます。職員は異動ごとに新たな担当となるわけですが、サービス提供先はすべての住民の方々でございます。すぐには形となってあ

らわれないかもしれませんが、いつかその成果が住民へ還元されるよう、そしていついかなる場面においても臨機応変に住民サービスができるような職員に育つよう、着実に一步一步進めてまいりたいと考えております。

2つ目の防災訓練の総括についてお答えいたします。

9月4日に村内一円で実施されました富山県総合防災訓練内容について9月議会でご報告した中で、事後検討会を開催し、今後の訓練に生かしたいと答弁させていただいております。その内容をご報告したいと思います。

事後検討会という名称を使っておりますが、中身は反省会でございます。9月30日に、自治会、消防団、民生児童委員会、社会福祉協議会、赤十字奉仕団、ふなはし荘と、訓練に中心的な役割を果たしていただきました団体の代表者の方にお集まりいただいております。

役場から訓練実施概要と反省点を説明した後にご意見をいただいております。主なものといたしましては、「情報伝達手段が確立されていなかったのではないか」「災害想定と訓練内容に多少違和感を持った」「自治会と連携した訓練が必要と痛感した」「訓練会場の芦原公園と同じ給水システムの設置をしてほしい」団地自治会からは、「これまで住んでいた自治体では、このような訓練は経験できなかったので大変新鮮だった。これからも続けてほしい」等のご意見をいただいております。

訓練の主目的、訓練規模の大小、訓練範囲の考え方、参加人員、参加団体の規模等でそれぞれ対応が違ってまいりますが、今回のような村内一円で全村民が対象となる大規模な訓練を実施することは大変難しいことだと実感いたしております。

さまざまな要因がふくそうする中で、いかに効果的な訓練ができるかは、慎重かつ計画的な諸準備と、職員への周知、役割分担の徹底はもちろんですが、参加団体、参加者との意思疎通が最も重要であると改めて感じております。準備段階であらゆる事態を想定した検討がなされるか否かによって訓練の成否に大きく影響を与えることになると思っております。

また、本村の自主防災組織率は100%でございますが、自らの命は自ら守る、自分たちの地域は自分たちで守ろうという地域連帯感をもっと強化しなければ、地域の安全を守ることは困難だと思っております。近日中に自治会から要望がありました防災マップと言える「消防水利位置図」もそれぞれの自治会にお配りいたしまして、行政と住民が情報を共有し合いながら地域防災力の向上となるようPRに努めてまいりたいと思

っております。

今回の経験を今後の訓練並びに周知活動に生かすよう取り組みてまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議長（竹島ヨリ子君） 川崎和夫君。

4番（川崎和夫君） 丁寧な答弁ありがとうございました。

人材育成については、やはり一朝一夕ですぐ成果が出るものではないと思います。だけど村の大事な職員ですので、長い目で見て大事に育ててほしいと思います。

次に、防災訓練の件ですが、きのうのことなんですが、きのうの夕方、テレビのテロップで気象警報が出されたんですね。県東部に防災警報が出されましたと。1時間以内に暴風雨が発生すると。堅牢な建物あるいは安全な場所に避難してくださいというテロップだったんです。こういうテロップは初めて見たんですが、いわゆる防災訓練というのは、待機していて、さあやりますよというものじゃないんですね。ある日突然どういう形で出てくるかわからないわけです。これが適当かどうかわかりませんが、例えば防災訓練に今200人の方が参加されましてと。あるいはふなはし荘で避難訓練をしまして。例えば人の時間をお金、単価に評価するというのはわかりませんが、ただ舟橋村として予算を組んで直接かかった経費というのとはわかんないです。だけど、いわゆる間接的に参加した人のお金、経費というのの中には出てこないわけなんですね。だから、そういう意味では、費用対効果という面から見ると、それが本当に適当であるかどうか評価の仕方はわかりません。だけど危機というのは、いつ何どき、どういう形で起こるかわからないというのを真摯にとらえた形で訓練を想定してやってほしいと思います。その積み重ねが次々に行くのではないかと思います。そういうふうな要望します。

以上です。

議長（竹島ヨリ子君） 総務課長 古越邦男君。

総務課長（古越邦男君） 川崎議員からいただきました職員研修についてのご指摘、十分今後とも生かすような研修に努めていきたいというふうに思っております。

そしてまた防災訓練、これも積み重ねが非常に大切であると思います。費用対効果も十分考え、参加された住民の方々の時間を金銭に換算するとどれだけになるか、膨大なものになるかと思っております。そういうことも十分踏まえながら、いかに効果的な訓練にな

るかということを考えながら、今後の防災訓練等に生かしてまいりたいと思っております。

ご指摘、大変ありがとうございました。